

発行元  
東京新聞南千住東口専売所  
TEL.5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL.3807-3486  
携帯090-2657-0300

# すまいるたうん



汐入

第57号  
平成20年  
1月3日

## 東京踊りは、ヨシヤサ 昭和の華 SKD

### 「西の宝塚・東の松竹」

### 「歌の宝塚、踊りのSKD」

昭和の時代、浅草には贅沢な夢の世界がありました。アトミックガールズ・エイト・ピーチエスをご存知ですか？

SKD（松竹歌劇団）は、昭和三年に東京松竹楽劇部として宝塚少女歌劇団・大阪松竹少女歌劇団に続き、浅草松竹座で発足しました。宝塚が芝居とショーの2本立てでしたが東京松竹楽劇部はバラエティーショー形式のレビューでした。一貫したストーリーはなく、オープニング・民族舞踊・バレエ・ラインダンス・民謡集・グランドフィナーレと幕を下ろすことなく続き、それらの場面は「景」とよばれ、だいたい一つの公演が20〜25景でまとめられていました。映画のアトラクションとして映画↓休憩↓レビューと多い時には1日3回の公演があり、女性客ばかりでなく家族ぐるみ、大学生や下町の商店で働く人など男性ファンも多かったです。

「ズロースは、また下二寸使用せしめ、桃色ズロースは禁じる」宝塚にない女優の官能的な衣装に対して昭和5年に風俗警察が警告文の一文です。水の江滝子さ

んが、「男装の麗人」としてこれまでの日本にはなかった断髪の男装姿に日本中の人気をさらいました。

宝塚は、トップスターを絶えず主役においての公演でしたが、SKDは昇格試験を受けて幹部になり大幹部・大幹部待遇・幹部・準幹部・ベストテン・生徒（芸芸員）となり、年功序列関係なく実力のある人がスターとなつて行きました。

昭和7年から始まる第1期黄金期、松竹少女歌劇団として昭和12年に浅草国際劇場（現浅草ビューホテルの所）のこけら落としをしてから、ここを拠点にして活躍しました。浅草国際劇場は「東洋一の五千人劇場」と言われ総座席数<sup>3860</sup>で2階席までありました。宝塚の間口は13間でしたが、ここは間口15間ありました。戦時中、国際劇場は閉鎖され団員達は慰問に出ました。戦後、復活して第2黄金期には川路・小月らきらびやかなスターたち、外部に出てから有名になった草笛・淡路・倍賞姉妹らスターもたくさん出ました。また日本は勿論、世界で最高のレビューチームとして、海外活動も多く、外国からの大切なお客様のおもてなしにも使われていました。年3回「東京踊り、夏のおどり、秋のおどりを上演し、この舞台にずらりと並んだ36人の「アトミックガールズ」のラインダンスは宝塚よりも激しくテンポよく、昭和31年の東京踊

りから精鋭団員8名で結成された「エイト・ピーチエス」は妖艶かつ華麗なダンスで魅了させてくれました。舞台装置は、すばらしく夏の踊りのフィナーレでは、毎分60トンの本水を惜し気もなく奔流される大滝のセット、屋敷が崩れていくところを見せる国際劇場独自の屋台崩しは、他に例のない迫真力をもつて、観る人々の心を捉えました。そんなSKDもTVなど娯楽の多様化普及に衰退し、経費があまりにかかりすぎたというのもあり解散しました。

「大学生のころ、こっそり一人で見に行つてファンだったんです」と最後のトップスターの甲斐さんに会ったM出版の社長は少年のように顔を赤らめていました。

装置の大仕掛け、華やかなそして大胆な衣裳、大群舞等々に観客は目を奪われ、夢見心地となりました。現実の生活を忘れ、ここで熱気を貰って明日はがんばるぞという元気になつて帰るお客がほとんどでしたから、SKDはエネルギー・汗・熱気がイメージです。

そんなSKDの舞台を再びと一日限りの昭和の夢世界が、来月13日に北千住のシアター千住で開かれます。今回はこれほどの大仕掛けではありませんが、「千住踊りはーよいやさー」から始まる夢のひと時をすごし、明日の活力にしたいだければ幸いです。